

琉球新報 2017.11.08 琉球新報朝刊 30頁 2社 1版 (全430字)

旧帝国大学の人類学者らが昭和初期、今帰仁村の百按司（むむじやな）墓などから遺骨を持ち出した問題で、照屋寛徳衆院議員が7日、県教育委員会に対して京都大学と台湾大学に保管されている遺骨を主体的に調査し、返還後は再埋葬することなどを求めた。県教委は返還の意向を示している台湾大に、今帰仁村教育委員会とともに返還を受け入れることを文書で伝えたことを明らかにした。返還後の一時保管先は、県立埋蔵文化財センターを検討している。

照屋氏は遺骨について（1）今帰仁村教委の意向を尊重して対応（2）持ち出された場所が分かっていない30体について主体的に調査（3）一時的な保管先は尊厳が守られる形で配慮（4）再埋葬を視野に慰霊祭開催－を求めた。京都大の遺骨についても、両教委の職員を派遣して現地調査するよう口頭で求めた。

両教委が台湾大に送った文書は（1）環境の整った施設で収蔵（2）地元の今帰仁村で活用－などを表明している。2日付で送付した。台湾大からの回答は7日時点でない。

琉球新報社